



きらめき

学校だより 第37号
大宜味村立大宜味小学校
令和7年2月21日(金)
発行者: 校長 平良 智

第68回西日本読書感想画コンクール 入選 6年 宮城 珠依(しゅい)さん

この度、県で最優秀賞を受賞し、県代表として出品されていた本校6年宮城珠依さんの感想画が、西日本読書感想画コンクールで「入選」しました。西日本読書感想画コンクールは、九州・山口各県学校図書館協議会と西日本新聞社が、地域の小・中学生、高校生を対象に開催している絵画コンクールで、1957(昭和32)年から続いている全国でも最長の歴史と、地方での開催としては最大の規模(2024年度の応募総数は約30万点)を誇るコンクールです。

「入選」おめでとうございます。

これは、「ぼくはうそをついた」という本を読み、感じたこと、考えたこと、心に浮かんだイメージなどを、心の中で組み立て、表現しているのですが、絵を描くにあたり工夫したことを、珠依さんに聞いてみましたので以下に紹介します。



「ぼくがうそをついた」

「私がこの感想画で頑張ったところは、おばあちゃんの目と横顔、おじいちゃんの鼻と涙を描いたことです。初めて描く絵柄でしたが、上手くできたと思います。また、地球の色を最初に目がいくように濃くぬりました。

次に、工夫したところは、おばあちゃんの目の周りの色を泣いた跡のように軽く赤く色味をつけたところです。水を多めにしてぬるのは少し大変だったけど、できあがったら達成感を感じることが出来ました。もう一つは少しボールペンを使ってハッキリ見えるように剛先生にアドバイスをもらいなぞって見たところです。あまりなぞり過ぎるとリアルに見えないと教えてもらい頑張りました。

この感想画を描くことで分かったことは、二つあります。一つ目は、立体的に左右対称に描くと、リアルに分かりやすく描くことができることです。二つ目は、グラデーションをする時は、下地に最初は水をぬってから絵の具をぬると、上手くなじむということが分かりました。今回学んだことは、中学でも活かしていきたいと思います。」 ナイスチャレンジ!